

## 農地保全のための都市農地フットパスの計画 ～藤沢市六会・御所見地区を対象として～

都市空間生成研究室  
1941010 石井 さやか

農地保全                      都市農地                      フットパス  
六会地区                      御所見地区                      ライフスタイル

### 1. 研究の目的と背景

近年、少子高齢化による農家の高齢化や担い手不足により、農家が減少し続けている。それに伴い、荒廃農地や耕作放棄地が増加し、田園風景の魅力を損なう原因にもなっている。藤沢市の田園地域である六会・御所見地区でも同様の問題がある。藤沢市六会・御所見地区の全国の農地と比べて狭いという特徴から住宅地との物理的距離が近い。このことから、周辺住民と田園地域が近い関係にあり、「農」と「周辺住民の暮らし方」が混在することで、農地に対して関心を持つ人が増えてくれるきっかけになると考える。そこで、道である為暮らしに溶け込みやすく、日常的に土地に触れることができる「フットパス」に着目する。

本研究は、藤沢市六会、御所見の両地区を対象に、農地保全のために農と近隣住民を共存させるための新たな取り組みとして、「都市農地フットパス」を計画することを目的とする。

### 2. 対象地について

藤沢市の土地利用の現状として、全体的に農地が減少傾向であることが伺える。また、御所見・遠藤・六会地区に田畑が多く存在している。本計画では、農地が一番広く存在する御所見地区と、大きな直売所が存在する六会地区を対象に計画を行う。

### 3. 六会地区と御所見地区の現状調査

#### 3-1. 調査の目的と方法

現段階の道と農地の関係性を把握するために、プロット調査と空間分析を行う。この調査結果を、フットパスを計画するにあたってどのように整備していくかの参考にす。プロット調査の方法は、Google マップのストリートビューを使用して、道の状態と、農地と道の間には障害があるのか、道から農地は見やすいかを点数をつけていく。対象地は、六会地区は亀井野のわいわい市周辺、御所見地区は打戻の少年の森である。空間分析の方法は、各エリアの重要と成り得る部分を厳選し調査を行う。Google マップのストリートビューを使用して、歩いて何がどこにどう見えるのかを描きだす。

#### 3-2. 六会地区のプロット調査

舗装されている道が少なく、フェンスや木で道から農地が見えづらくなっている場所が多く存在した。特に農業用水が流れている場所でフェンスを設えており、道と農地が開けていない印象になっている。

#### 3-3. 御所見地区のプロット調査

御所見地区は比較的道が整備されており、普段から農業を営む人以外でも訪れる人がいる可能性がある。しかし、団地前の農地は木で道との関係を絶たれていた。このことから、人が多く住む団地の前で農地を隠していることは、人と農地がうまく共存できていないことが考えられる。

#### 3-4. 考察

六会地区と御所見地区のそれぞれの空間的特徴と課題が整理された。六会地区では、対象地全体を見渡しやすい一方で、視界を遮る障害が幾つも設けられており、農との距離を感じてしまう。御所見地区では農地と道との関係を隔てる障害は少ないものの、通りたくなる仕掛けが無く、ただ通る為だけの道としてしか機能されていない。これらのことから計画を行うにあたり、それぞれの特徴を活かしながら、六会地区では通るだけで農と近い関係になれる仕掛けづくり、御所見地区では道を通る為の農に関連した目的づくりを行っていく。

### 4. フットパスについて

#### 4-1. フットパスとは

イギリスを発祥とする『森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径（こみち）【Path】』のことである。

#### 4-2. 考察

フットパスは、地域資源を重視した景観的まちづくりのみならず、経済的効果や副次的効果、人々の健康や地元の人とのつながりを生み出すものであるなど、多岐に亘り有効性があることが本章で示唆された。そこで本計

画のフットパスでは、六会地区と御所見地区の地域資源である農地を保全する為に、農地が人々の日常活動の背景にすることを重要とする。

## 5. フットパスの計画

### 5-1. 計画の全体説明

六会地区と御所見地区のそれぞれの居住者属性を活かしたライフスタイルから、フットパスを計画提案する。本計画の全体のコンセプトは、都市農地に都市生活者が日常生活の一部として触れられるフットパスであり、周辺住民が普段から利用しやすいフットパスをつくることである。フットパスを日常的に利用してもらい、日常生活の一部に農が含まれることで農に対する愛着を湧かせ、都市農地保全の機運を高める狙いがある。常に利用してもらうためには、行きたくなる工夫が必要である。その工夫として、それぞれ施設を設置する。

### 5-2. 六会地区

テーマコンセプトは、「見る・通るだけで農に触れる」である。ターゲットを社会人に選定し、通通勤時に利用されることを想定する。特に出勤時は短い時間でアクションを生むことが重要であるため、視覚に注視した計画を行う。



図1. 六会地区の全体エリア計画図

### 5-3. 御所見地区

コンセプトは、「人と農地とゆっくり触れ合う」である。ターゲットに子供や学生を選定しているため、主に放課後の時間に利用することを想定する。



図2. 御所見地区の全体エリア計画図



図3. 御所見地区の施設パース

### 5-4. まとめ

六会地区と御所見地区の農地が保全され続けるために、日常生活の一部に農が含まれ愛着を湧かせる為の計画を行った。本計画から農地が減少傾向にあるという課題に対して意識してくれる人が増え、農地を保全し続けるきっかけとなってくれることに期待する。

#### 参考文献

- 1) 藤沢市、「第2次藤沢市都市農業振興基本計画」、平成29年3月、p.11